

予備費の乱用 財政民主主義骨抜きに

国会は国民からの託された責務を投げ出さつむりなのか。おとどくに衆院で可決された補正予算案は、政府による予備費の乱用といふ財政の根幹にかかる問題を明らかにもかわらず、歯止めをかけるような審議に至らなかつた。民主主義の機能不全を危惧せざるを得ない。参院では厳しい追及が求められる。

政府が提出した補正予算案は、総額2・7兆円と規模は小ぶりだ。しかし、うち1・5兆円を、物価高対策で使つた予備費の埋め戻しにあてるといふ重大な問題を抱えている。

憲法は、政府の支出と国会の事前議決を義務づけており、例外的に「予見しがたい予算の不足に充てるため」に予備費の計上を認めてくる。岸田政権は今年度予算なら・5兆円の予備費を計上していた。

4月末からの物価高対策の背景には、ロシアのウクライナ侵

略といひ不測の事態もあった。しかし国会は一月から開会中であり、必要な支出ならば国会でその分の補正予算を審議するのが憲法の要請だ。政府も、国会開会中の予備費使用は、災害など「比較的軽微な経費」に限ると繰り返し閣議決定で確認しておたはずだ。

いじった筋の通らない予備費支出を、再び予備費で補填するというのだから、あきれるしかない。しかも、これまで「口口ナ対策」としてふた使途を物価高対策に拡大するといふ。事実上何にでも使える」となりかねず、政府への「白紙委任」が常態化する危険性がある。

むろんが、衆院の審議では、ねず、政府への「白紙委任」が本銀行は政府の子会社」「(国債)を何回借り換えたって構わない」と公然と圓滑に放つなど、財政規律の軽視は目に入る。このうえ近代議会の大原則である財政民主主義までが骨抜きされるのは、看過できない。

議員一人一人が政府と緊張関係を保ち、憲法をはじめとする法令の精神が守られるよう監視しなければ、権力が暴走しかねない。そのことを銘記して参院を使つたブリペイドカードを減つた分だけチャージするのが国会会議では「政府が使いたい放題使つた」と批判した。し

かし、突つ込んだ質疑が可能な予算委員会では、野党側も質問の大半を消費減税や給付金充実などの要求に費やした。

統治機構の基盤が揺らぐ危機を前に、与野党が参院選に向かって人気取りを優先するのであれば、あまりに情けない。

財政法が禁じたはずの赤字国債は、特例法による発行が常態化している。安堵元總理が「日本銀行は政府の子会社」「(国債)を何回借り換えたって構わない」と公然と圓滑に放つなど、財政規律の軽視は目に入る。このうえ近代議会の大原則である財政民主主義までが骨抜きされるのは、看過できない。